



朗読音声のダウンロード
Audio download



LEVEL
4

油屋熊八

あぶら やくまはち

別府観光の父

べっ ぷか んこう ちち

★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

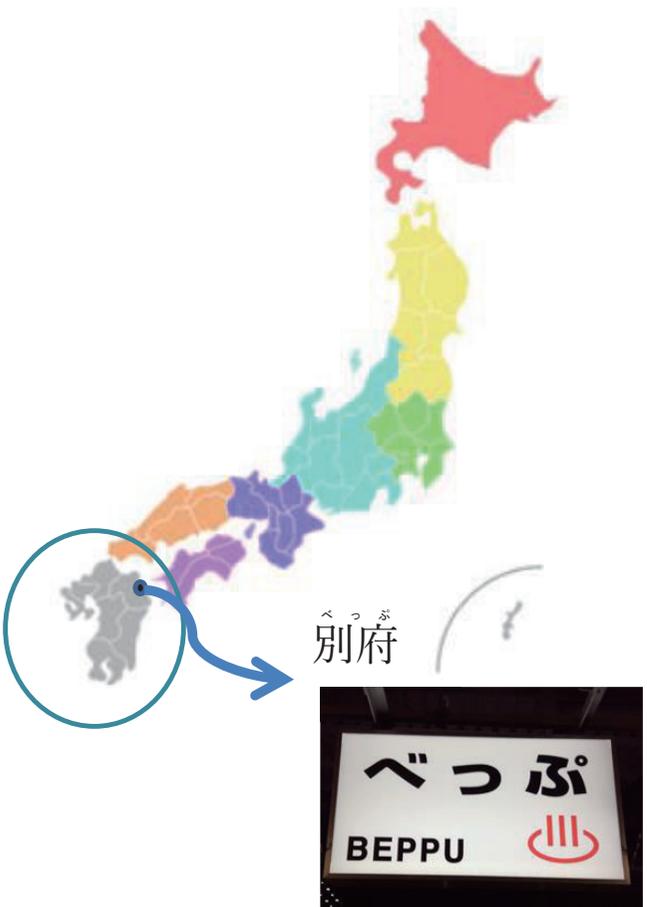
Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



九州の大分県に別府という町があります。

別府は温泉があつて、昔から人々が集まる町でした。



別府駅の前にこんな像があります。



これは油屋熊八という人の像です。熊八は約百年前、日本で初めて別府にバスガイドつきのバスツアーを計画しました。今の別府の観光の基礎を作った人です。熊八がどんな人だったか見てみましょう。



わか
くまはち
若いときの熊八

くまはち せんはつびやくろくじゅうさんねん えひめけんうわじま
熊八は一八六三年に愛媛県宇和島で生まれま
した。 にじゅうななさい
した。 二十七歳のときに宇和島町のために働く議員になりました。

そのころの年齢の数え方は今と少し違いましたので、二十七歳というと、

今の二十五歳か二十六歳です。 熊八は町で新聞を作ったり、

米の売り買いについて勉強したりして、町の人のために

働きました。 三十歳のときに議員をやめて大阪に行き、

株を売ったり買ったりして大成功しました。



せんはつびやくきゅうじゅうよねん にほん いま ちゅうごく あいだ せんそう はじ
一八九四年に日本と今の中国の間で戦争が始まりました。この戦争の後、
かぶ ねだん おお へんか
株の値段が大きく変化して、熊八は多くのお金を失くしました。そして三十五歳のと
き、株の仕事を休んでアメリカへいくことを決心しました。

アメリカではいろいろな経験をしました。自動車やホテルを見たり、アメリカのサ
ービスがどのようなものか、体験したりしました。広い国を旅行して人々の親切をた
くさん感じました。そして三十八歳のとき、キリスト教徒になって日本に帰りまし
た。キリスト教の考え方は、彼のその後の活動に大きな影響を与えます。

くまはち べつぷ りよかん も 熊八 別府に旅館を持つ

くまはち べつぷ りよかん
熊八は、アメリカから帰って株の仕事を続けていましたが、一九一一年、
よんじゅうきゅうさい
四十九歳のときに別府に住むことを決めました。別府では熊八の家族が小さい旅館
を持つていました。その旅館は「亀の井旅館」といいます。熊八
べつぷ りよかん
は別府のこの旅館で、自分の力を試すことにしたの
です。



熊八は旅館の仕事を始めるとき、キリスト教で勉強した、



「旅人をねんごろにせよ（旅する人に親切にすることを忘れてはいけない）」

という心を大切にしようと思いました。アメリカで人々の親切を受けたことと、アメリカで見たり聞いたりしたたくさんさんの経験が熊八の頭の中になりました。

ですから熊八は、亀の井旅館に泊まる人を駅や港に迎えに行ったり、病気のお客さんを家族のように世話したりしました。このようなサービスはそのころめずらしいものでした。

きやく あんぜん たび お客さんの安全な旅のために

熊八がお客さんのために考えたことは旅館のサービスだけではありませんでした。まず、熊八はお客さんが安心して船で別府に着けるように、船会社に相談しました。

そのころ別府に港はありませんでしたが、大阪からの大きい船は海の深い所でした。止まれません。お客さんは大きい船から小さい船に乗り換えて別府の港に来なければなりません。しかし、それはとても不便でしたし、危ないことでした。

熊八の相談を受けて船会社は一九一六年に別府の港に船着き場を作りました。おかげで人々は大きい船から安全に町に来ることができるようになりました。

お客さんの楽しい旅のために

◆地獄めぐり

観光客は別府で「地獄」を見るのを楽しみにしていました。「地獄」は、熱いお湯が地面から出ている場所です。ある所ではお湯が地面から吹き出ていますし、別のところではお湯が晴れた空のように青くてきれいです。「地獄」をいくつも続けて見て歩くことを「地獄めぐり」といいます。

お客さんが地獄めぐりをするときは普通、自分で歩くか、人が車を引く人力車や、何人か



「別府案内地獄めぐり」
1927年ころ（大分県立図書館所蔵）

船着き場の船

別府の船着き場は
今のショッピング
センター「ユメタウン」
の場所にありました。



上: 船会社のポスター
(大阪商船株式会社1915年から1921年ころ)
下: 船着き場から見送る人たちの絵葉書

の
で乗る自動車で行きました。

熊人はもつとたくさんのお客さんに「地獄めぐり」をして楽しんでもらいたいと思
っていました。それで熊人はバスを買って一度に二十五人のお客を地獄めぐりに連
れていくことにしました。三人乗りの自動車で地獄をまわると一人四円かかります。
バスなら一円でした。そのころ一円でそばが十杯くらい食べられたと思われま
す。自
動車はお金持ちしか使うことができませ
ん
が、バスなら普通の人も乗れました。

「別府温泉ご遊覧の志を里」
1927年（大分県立図書館所蔵）

□ 龜の井自動車料金
禁酒運轉・安全第一を
モットーとして自慢のド
ライブを致します、地獄
巡り及耶馬溪巡りには有
名な車掌嬢説明の大型バ
スがあります。
一、地獄巡り
普通車 金四
乗合 金壹
圓圓

自動車4円
バス1円

このとき作られたバス会社は、今も「龜の井バス株式会社」として別府で地獄めぐ
りのお客を乗せて走っています。



1929年の亀の井自動車株式会社



2017年の亀の井バス

◆バスガイド

地獄めぐりのお客さんが喜んでことがもう一つあります。それはバスガイドです。熊八はバスに、お客さんに場所の説明をしたり質問に答えたりするガイドを乗せました。そのガイドをみんな若い女性にしました。二十五人乗りのバスを観光のために走らせることも、そのバスに女性のガイドを乗せることも日本で初めてのことでした。熊八は地獄めぐりと女性バスガイドをセットにして宣伝し、女性バスガイドは別府地獄めぐりの旅に、なくてはならないものになりました。その後、バスガイドという仕事は女性の代表的な仕事の一つになったようです。

バスとバスガイド



(しゃんていきょう べっぶしおんせんか しだかこ しゃん
写真提供 別府市温泉課 志高湖の写真ギャラリーより)

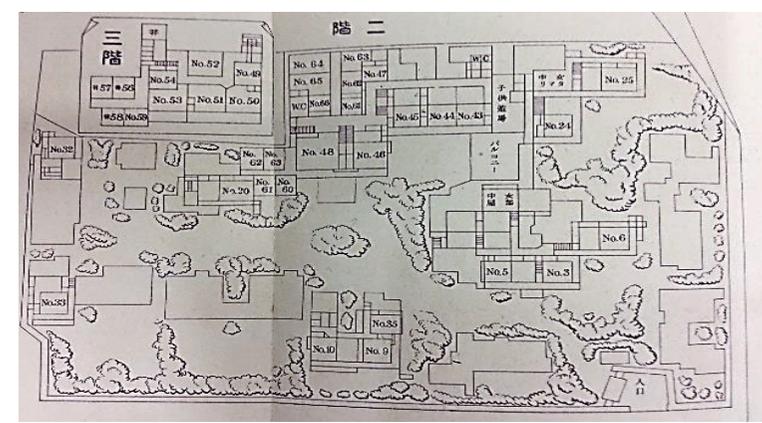


◆ 亀の井ホテル

せんきゅうひやくにじゅうよねん
 一九二四年、熊八は旅館をホテルに建て替えました。別府には外国人の観光客が増えていましたが、外国人が泊まってゆつくりできるホテルはあまりありませんでした。それで旅館をホテルに建て替え、ホテルでは和食に加えて、洋食を食べることができるようになりました。また、ホテルには急な病気に対応するために、いつも看護師がいました。



亀の井ホテルには1階に大きい食堂が
 和食と洋食が食べられました。
 朝食 一円、夕食 二円でした。



「別府温泉御遊覧の志を里」

ねん おおいたけんりつとしょかんしよぞう
 1927年(大分県立図書館所蔵)

べつぷ せんでん
別府の宣伝

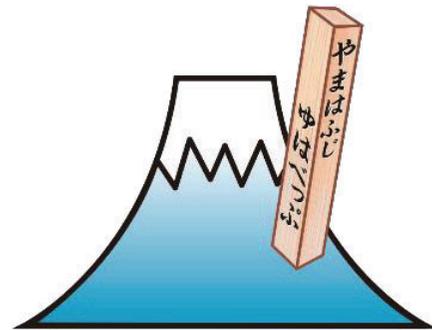
ふじさん はしら た
◆富士山に柱を立てる

くまはち なかま べつぷ にほんじゆう し
 熊八は仲間といっしょに、別府を日本中に知らせるための「別府温泉宣伝協会」
 つく かんが
 を作りました。熊八と仲間はほかのだれも考えないようなアイデアをいろいろ考
 えましました。そして、どんどん実行しました。あるときは富士山に宣伝を書いた大きい
 はしら
 柱(24 cm×24 cm×3 M)を立てました。そこには

* 「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」

と書いてありました。富士山に登った人はみんなこれを見ました。別府の名前をこの柱で知った人も多かったでしょう。

* 宣伝言葉の意味 有名なのは、山なら富士山、海なら瀬戸内、温泉なら別府！



◆ 新日本八景コンテスト

一九二七年、大阪と東京の新聞社が「新日本八景」というコンテストをしました。これは、どの場所が一番きれいかを、読者からのはがきの数を参考にして決めるものでした。別府は温泉部門で日本一になりました。熊八は自分ではがきを送ったり、知り合いにはがきを書くように頼んだりして、このコンテストに大変なエネルギーを使っていたのでその結果を喜びました。そのころ珍しかった飛行機で大阪に行き、新聞社の社長にお礼を言ったそうです。



◆九州を観光地に

きゅうしゅう かんこうち

熊八は別府が温泉日本一になったことを喜んで

ただけではなく、すぐに、九州にたくさん

国立公園を作り、みんなに来てもらおうという意

見を新聞で発表しました。熊八は別府の観光と

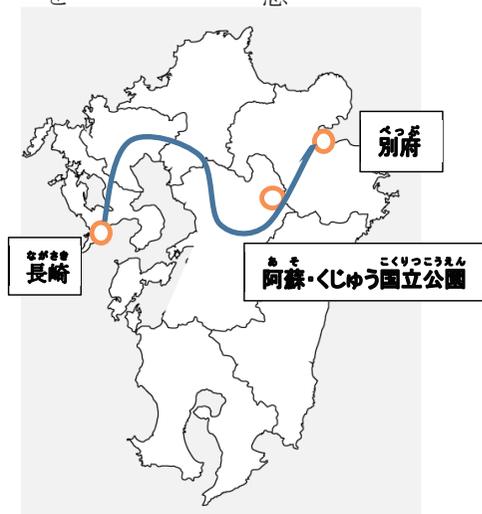
ともに、広くて大きい九州の観光のことを考

えていたのです。熊八はいつもみんなの一歩先を

考えて人々をリードしてくれました。公園は

実現し、公園と観光地を結ぶ長い道も作られました。この道は九州横断道路として

旅行者によく利用されています。



熊八は一九三五年、七十三歳で亡くなりました。旅館を始めてから二十四年
目のことでした。

別府駅の前に熊八の像が建っています。空からみんなに話しかけるように立ってい
ます。みなさん、熊八が観光の基礎を作った今の別府を体験しに、別府にきてみませ
んか。

熊八の年は、彼が生きていた時代の教え方で示されています。現代の教え方より1歳から2歳多くなりま
す。

ねん べっぶし
2017年の別府市



じょうげしやん べっぶし
(上下写真 別府市フォトギャラリーより)

えきまえ くまはちぞう
駅前熊八像



著者… 豊田 真規 (おおいたはつ よ
かいん 会員)

協力… NPO多言語多読 <https://radoku.org>

写真、図版提供… 表紙 熊八写真 別府市誌 別府市役所温泉課

10ページ 「別府案内地獄めぐり」 猪野里親編、竜古堂出版部 1927年ころ部分大分県立図書館
11、17ページ 別府温泉御遊覧の志を里」 吉田初三郎画、観光社 1927年1月部分 大分県立図書館
19ページ 加藤守弘

その他 亀の井バス株式会社、株式会社商船三井、

別府市フォトギャラリー <https://www.city.beppu.oita.jp/tom/02photo/index.html>(2018年3月)

参考資料…

「油屋熊八」『大分の先人たち』(1998) 大分県小学校道徳教育研究会 発行長谷川凱久 光文書院
『アイディアに生きる小説油屋熊八パート2』(1998) 村上秀夫 別府市観光協会
別府観光の恩人、油屋熊八」平野芳弘『まちごとわかる大分県』(2014年9月30日)辻野功、檜本讓司、
大分学研究会編、明石書店
「特別寄稿 梅田凡平、油屋熊八、お伽船」『別府史談』No.19(2006)p.1-10 堀田穰(ほったゆたか)
「油屋熊八を深く知るための資料について」『別府史談』第30・31合併号(2018)p.60-72 秦広之

図版… 7ページ http://clipart.christiansunite.com/1522752061/Bibles_Clipart/Bibles013.gif(2018年3月)
20ページ <http://pubhcdomanq.net/postcard-0018765/>(2018年3月)
6、16ページ <http://free-illustrations.gatag.net/tag/%E6%A9%E6%B3%89/>(2018年3月)
https://www.irasutoya.com/2015/07/blog-post_16.html(2018年3月)

この本の中のイラスト・写真の二次使用を禁じます。

